



東レのグローバル活動

長期的視点に立った 「Made in TORAY」*の精神で グローバルに展開

国内外のグローバル生産拠点を活用した、
為替や需要変動に柔軟に対応しうる体制の強化・拡大。

*どこで生産しても、それが東レグループの製品であれば、つねに同一の品質である「Made in TORAY」として、東レがその品質を保証すると言う考え方



グローバル活動の基本姿勢——地域に根ざし、地域と共に発展する

東レグループの海外生産活動は、1963年、タイから始まりました。

日本企業としては極めて早い時期からの海外現地生産の開始であり、60～70年代には東南アジア、80年代には欧米、90年代には韓国と中国へと拠点を広げていきました。

現在では、それら海外拠点と国内拠点の有機的連携を強化したグローバルオペレーション体制を構築しており、これが為替や需要変動に柔軟に対応できる東レグループの強みとなっています。

東レの製品はどの国・地域で生産されたものでも「Made in Toray」としての東レ独自の高い技術・品質水準を満たしていかなければなりません。

私たちは日本の工場をグローバルな成長戦略を支えるマザーワークと位置づけ、最先端、革新的な研究・技術開発を行い、先端材料の開発や革新的なプロセスの開発・確立に取り組んでいます。

そして、国内外のグローバル生産拠点を活用して、最適な拠点で生産することにより、事業拡大をはかります。また、生産拠点として立ち上げた工場は、その地域と共に発展し、その国にしっかりと根付いていくという事が、グローバル展開における我々の基本姿勢です。

タイ事業は今年で50周年

タイにおいて東レは、グループ初の海外生産拠点として、1963年にポリエスチル／レーヨン混織物のThai Toray Textile Millsを設立、今年50周年を迎えました。

現在、ポリエスチル／綿の紡績・織布・染色やエアバッグ用織物などを手掛けるLuckytex (Thailand)、ナイロン・ポリエスチル長繊維などを製造するThai Toray Syntheticsを含め幅広い事業展開を行っています。

東レはタイをASEAN地域の重要な事業拠点と位置づけ、事業を拡大しています。

インドネシア事業とマレーシア事業は40周年

インドネシアとマレーシアについては、事業開始から40周年を迎えました。

インドネシアでは1972年にポリエスチル／綿混織物のCentury Textile Industry、ポリエスチル／レーヨン混織物のIndonesia Synthetic Textile Millsが操業を開始しました。

その後も、ナイロン長繊維、高機能ポリプロピレン長繊維不織布の生産子会社などを設立し、コスト競争力を背景に大きく成長してきました。

一方、マレーシアにおいては、1970年代に繊維生産拠点を相次いで設立し、現在、ポリエスチル短繊維、ポリエスチル／綿混紡績・織布・染色・プリント加工など、ファイバーからテキスタイルまでの一貫生産を行うとともに、樹脂やフィルムの生産を行い、多様な事業を展開してきました。

各国で科学振興財団を設立

東レは1993～94年にかけて、インドネシア、マレーシア、タイに科学振興財団を設立しました。それぞれの財団は各国での科学技術及び文化の向上・発展に寄与することを目的に、ASEAN地域での科学技術振興に貢献しています。

炭素繊維の グローバルな事業拡大

グローバル生産体制を 強化し、需要増に対応

ポリアクリロニトリル(PAN)系炭素繊維の世界需要は、2012年で約3.9万トンにまで拡大しており、今後も年率15%以上の高成長が見込まれます。

炭素繊維の世界ナンバーワンメーカーとして世界の炭素繊維業界をリードしている東レは、日本・米国・フランス・韓国の世界4極生産体制を構築しており、4拠点に総額約450億円を投じて炭素繊維の年生産能力を6,000トン増強します。

これにより、グループ全体の生産能力は2015年3月までに年産27,100トンまで拡大し、世界各地のお客様に高品質・高品位な炭素繊維を安定的に供給する体制を拡充します。

積極的な用途開発を推進

東レグループは炭素繊維の用途開発を積極的にすすめています。

自動車用途では、ドイツのダイムラーと2011年6月に炭素繊維複合材料製自動車部品を製造・販売する合弁会社を設立し、熱硬化性樹脂をベースとしたRTM(Resin Transfer Molding)技術の大幅な生産性向上に取り組むと同時に、ダイムラー向けに量産部品の供給を開始しています。さらに、2013年4月には、レーシングカーの設計・製作を通じて自動車業界から高い評価を得ている、童夢カーボンマジックの買収により、同社の優れた設計・解析技術力と試作提案力を取り込むと同時に、タイの生産拠点を確保することで、コスト競争力のある垂直統合型サプライチェーンの足場を固めています。

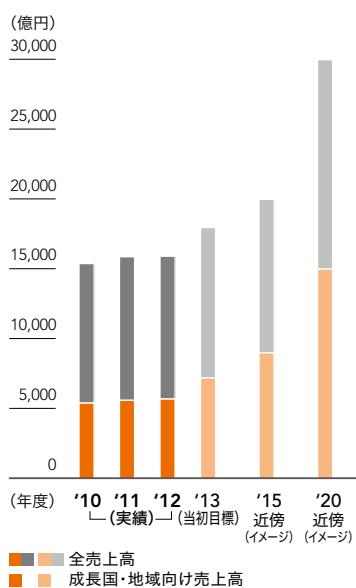
また、米国でのシェールガス実用化に伴って需要が伸びている圧縮天然ガスタンクなど環境・エネルギー関連用途でも、市場拡大に対応し拡販をすすめます。





アジア新興市場で 生産拠点拡大

成長国・地域向け売上高推移



ASEAN地域の 成長力の取り込み

東レでは攻めの経営へと転じる中期経営課題“AP-G 2013”的基本戦略に沿って、グローバル展開においても成長性の高い国や地域での事業展開に力を注ぐ「アジア・新興国事業拡大(AE)プロジェクト」をグループ横断で推進しています。

東レグループは、アジアやその他の新興国など成長国・地域向けの売上高を2012年度の5,695億円から2020年近傍にかけて1兆5,000億円規模に拡大することを目標としています。

樹脂コンパウンドの拠点新設を決定

インドネシアで初となるエンジニアリングプラスチックの樹脂コンパウンド拠点の新設を決定しました。インドネシアでのエンジニアリングプラスチックの需要量は年率約9%で成長する見通しで、現地生産によるお客様への素早い対応や、きめ細かい技術サービスを提供することで、今後拡大するインドネシアでのエンジニアリングプラスチック需要をいち早く確実に取り

込み、事業拡大をはかっていきます。年産6,000トンの生産設備を導入し、2013年11月の稼働開始を目指しています。

自動車エアバッグ用ナイロン繊維の 増産を決定

新興国市場でのエアバッグ装着率の向上等によるエアバッグ需要の拡大を取り込むべく、タイで自動車エアバッグ用ナイロン66繊維の生産設備増設を決定しました。新設備の年産生産能力は約7,000トンで、稼働開始は2015年1月の予定です。この増設に伴い、日本とタイを合わせたエアバッグ用ナイロン66繊維の生産能力は年産約32,000トンに増加します。

包装用フィルムの生産拡大を決定

生活水準の向上に伴い、ASEAN地域における包装材料需要は、年率3~5%の成長が見込まれます。東レグループは、この需要拡大を取り込むべく、食品等包装用フィルムの蒸着加工設備をマレーシアで増強することを決定しました。2014年4月の稼働を予定しています。



成長が見込まれる 中国にも引き続き注力

樹脂コンパウンドの新会社を設立

中国のエンジニアリングプラスチックの需要は、自動車や家電用途を中心に年率約12%程度の成長が見込まれています。

なかでも西部地区は17%もの成長率が見込まれることから、すでに樹脂コンパウンド事業を展開している華南・華東・華北の3拠点に加え、2012年7月、成都に樹脂コンパウンドの新会社を設立しました。

当初は自動車や家電で使用されているナイロン樹脂やPBT樹脂、PPS樹脂等を展開し、将来的にはより付加価値の高い炭素繊維を使ったコンパウンドなどの生産も手がけていく予定です。

トレカ[®]樹脂コンパウンド設備を 中国で新設

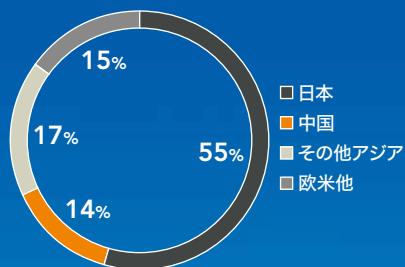
炭素繊維をコンパウンドすることで強度を持たせた炭素繊維強化熱可塑性樹脂(CFRTP)の世界需要は年率約10%以上の成長が見込まれ、

2012年の約30,000トンから2020年には約70,000トンに拡大すると予想されています。なかでも中国は大きな伸びが見込まれることから、東レでは炭素繊維「トレカ[®]」を使った樹脂コンパウンドの生産設備を中国華南地区で新設しました。

中国での透析事業を拡大

現在の中国市場での透析製品(透析装置、人工腎臓)需要の大半は、輸入製品でまかなわれてきましたが、市場ニーズに迅速に対応するべく、現地での供給体制を構築しています。東レは2011年6月に現地企業との合弁会社を設立し、まず、透析装置生産工場を新設し、2012年4月から透析装置の生産・販売を開始しました。さらに、透析装置工場と同一敷地内で人工腎臓新工場を建設中で、2014年からの販売開始を予定しています。

アジア地域以外の成長市場への布石



2012年度地域別売上高比率

2012年度の海外事業の売上高は7,220億円、全体売上高の45%を占めました。東レは海外各社の持つ豊富な経営資源・インフラを最大限に活用して、東レグループの総合力で海外事業を拡大しています。

東レグループはアジア地域以外でも、新興国市場の開拓へ向けた布石を着々と打っています。

東レのブラジルでの事業規模は60億円程度ですが、5年後には200億円規模にまで拡大を目指します。

ブラジルの拠点を拡充

ブラジルでは2012年11月に現地法人を新体制に改組、ローカルスタッフの増員とともに初めて日本人駐在員を派遣し、スタッフを倍増し、販売拠点としての人員拡充を行いました。

約1億9,000万人の人口と日本の20倍以上の国土面積を持つブラジルは、ラテンアメリカ最大の国家です。世界第6位の経済大国であり、過去5年間の実質GDP(国内総生産)の伸び率は年平均約4%と安定成長を続けています。

また、2014年にはサッカー・ワールドカップ、2016年にはオリンピックと世界的なスポーツイベントの開催を控え、今後も経済発展に拍車がかかるものと見られます。

トルコで駐在員事務所を開設

東レグループの商事会社である東レインテナショナルは2012年7月、トルコ最大の都市、イスタンブールに駐在員事務所を開設し、営業を開始しました。

トルコの推計人口は約7,400万人、その半数が29歳以下の若年層で占められています。経済面においては、過去8年間の実質GDPが年平均約5%と、着実に成長を遂げています。

東レインテナショナルは、駐在員事務所の開設を機に、お客様のニーズへの迅速な対応や現地企業との連携など、現地拠点を活用した取り組みにより、トルコ及びその周辺国において、産業資材繊維、テキスタイル、印写材料等の事業拡大をはかります。